

総合計画、市民意向調査からの抜粋資料

東村山市地域福祉計画策定委員会 第2回(H23.8.30) 資料4

総合計画及び市民意向調査から今回の会議議題に関連する項目の一部を抜粋しました。
参考としてご覧ください。(第1回策定委員会での資料に平成20年度に実施した子ども関係のアンケートを追記したものです)

| 引用元 | 引用箇所 | 内容 |
|------------|------------------|--|
| 1 総合計画 | 将来都市像 | 人と人 人とみどりが響きあい 笑顔あふれる 東村山 |
| 2 総合計画 | 今後のまちづくりに向けた重点課題 | 健やかで安心なくらしの実現(高齢者や障害者をはじめとして、市民一人一人が住み慣れた地域でいつまでも健康で安心して暮らせるように) |
| 3 総合計画 | 今後のまちづくりに向けた重点課題 | 子育て支援機能の強化(待機児解消と多様な保育ニーズにこたえられる子育て支援) |
| 4 総合計画 | 基本目標 | みんなで支え助け合う、健やかにいきいきと暮らせるまち |
| 5 総合計画 | 基本目標 | みんなが快適に暮らせる、活力と魅力にあふれたまち |
| 6 総合計画 | 施策大綱 | 安心して子育てができる環境を整備する |
| 7 総合計画 | 施策大綱 | だれもがいきいきと生活できるよう支援する |
| 8 総合計画 | 施策大綱 | 生涯にわたる健康づくりを支援する |
| 9 総合計画 | 施策大綱 | 互いに認め合える社会を作る |
| 10 総合計画 | 施策大綱 | 安全で安心なくらしを守る |
| 11 アンケート一般 | 問8 | 健康のために気を付けている人は前回調査より増えている |
| 12 アンケート一般 | 問13、14 | 近所付き合いが少なくなっている |
| 13 アンケート一般 | 問15 | 助け合える地域にしたいという意見は増加 |
| 14 アンケート一般 | 問16 | 地域組織には災害対応、交通安全・防災・防犯、子どもや障害・高齢者等への対応が望まれている |
| 15 アンケート一般 | 問23 | 普段の悩みは「将来への不安」がダントツ |
| 16 アンケート一般 | 問28 | 税金が重くなっても福祉サービスの充実を望む |
| 17 アンケート一般 | 問30 | 福祉に関する情報は、あまり入手されていない |
| 18 アンケート一般 | 問32 | 災害時登録は利用したい人が75%を超える(個人情報に気になるが・・を含む) |
| 19 アンケート一般 | 問33 | 災害対応については地域ぐるみの協力体制の強化が望まれている |
| 20 アンケート一般 | 問34 | 定住意向は56%と低い |
| 21 アンケート一般 | 問36 | 地域で支え合うためには「人材養成」「経済支援」「意識啓発」「学校での教育」が多い |

| | 引用元 | 引用箇所 | 内容 |
|----|------------|---------|---|
| 22 | アンケート高齢 | 問5 | 家族構成は夫婦のみ(44%)、子どもとの2世代(25%)、一人暮らし(17%)の順に多い |
| 23 | アンケート高齢 | 問10 | 健康のために気を付けている人は前回調査より増えている |
| 24 | アンケート高齢 | 問25 | 住み慣れた地域で暮らしていくため、「24時間受けられるサービス」「相談窓口」「見守り支援」などの要望が高い |
| 25 | アンケート高齢 | 問26 | 在宅生活が難しくなった場合、「家族介護で在宅生活を継続」「介護サービスで在宅生活」「介護保険入所施設」の順に要望が多い |
| 26 | アンケート高齢 | 問41 | (介護保険認定を受けていない高齢者の場合)災害時に一人で避難できるかは「できる(76%)」「できない(18%)」 |
| 27 | アンケート高齢 | 問42 | 行政機関等へ情報を登録しておく仕組みは「利用したい」に関する回答が6割を超える |
| 28 | アンケート高齢 | 問43 | 災害に備えて必要だと思うことは「地域ぐるみの協力体制」「支援が必要な方への非難の手助け」が多い |
| 29 | アンケート高齢 | 問44 | 介護保険サービス以外に重要だと思う施策は「包括支援センター」「配食サービス」「緊急通報システム」の順に多い |
| 30 | アンケート障害 | 身体問14 | 生活で困るのは「困っていることは無い」「外出する機会・場所・手段等が限られる」「自身の調子がよくない」の順に多い |
| 31 | アンケート障害 | 知的問10 | 生活で困るのは「コミュニケーションがうまくとれない」「外出する機会・場所・手段等が限られる」「金銭管理ができない」の順に多い |
| 32 | アンケート障害 | 精神問13 | 生活で困るのは「自身の体調がよくない」「職業に就くことができない」「コミュニケーションがうまくとれない」の順に多い |
| 33 | アンケート障害 | 難病問11 | 生活で困るのは「自身の体調がよくない」「困っていることは無い」「外出する機会・場所・手段等が限られる」の順に多い |
| 34 | アンケート障害 | 身体問18-3 | 支援者が困るのは「自身が高齢になり支援できない恐れ」「自分の時間が持てない」「精神的な負担が大きい」の順に多い |
| 35 | アンケート障害 | 知的問13-3 | 支援者が困るのは「自身が高齢になり支援できない恐れ」「精神的な負担が大きい」「自分の時間が持てない」の順に多い |
| 36 | アンケート障害 | 精神問19-3 | 支援者が困るのは「自身が高齢になり支援できない恐れ」「精神的な負担が大きい」「出費がかさむ」の順に多い |
| 37 | アンケート障害 | 難病問14-3 | 支援者が困るのは「自身が高齢になり支援できない恐れ」「自分の健康状態がよくない」「精神的な負担が大きい」の順に多い |
| 38 | アンケート障害 | 災害時避難 | 知的障害者は「災害時に避難できない(74%)」が特に多い(他障害は30~45%) |
| 39 | アンケート障害 | 身体問39 | 今後の重点施策要望は「道路・交通機関等暮らしやすいまちづくり」「情報提供と相談体制」「ヘルパー等サービスの充実」の順に多い |
| 40 | アンケート障害 | 知的問30 | 今後の重点施策要望は「情報提供と相談体制」「福祉的就労の場の整備」「地域で支え合う体制づくり等」の順に多い |
| 41 | アンケート障害 | 精神問33 | 今後の重点施策要望は「障害への市民理解を深める」「情報提供と相談体制」「道路・交通機関等暮らしやすいまちづくり」の順に多い |
| 42 | アンケート障害 | 難病問28 | 今後の重点施策要望は「道路・交通機関等暮らしやすいまちづくり」「難病患者も障害サービスを利用できるように」「情報提供と相談体制」の順に多い |
| 43 | アンケート福祉関係者 | 問6 | 地域で助け合う体制は「仕組みまではないが助け合おうという雰囲気等は育っている」が54%で前回より9ポイント増加 |
| 44 | アンケート福祉関係者 | 問7 | 受ける相談は「高齢者」「健康」「地域活動」「地域環境」「人間関係」の順に多い |
| 45 | アンケート福祉関係者 | 問11 | 今後重要になると思われる活動は障害・高齢では「話し相手」「交流活動」「見守り活動」が多い |
| 46 | アンケート福祉関係者 | 問11 | 今後重要になると思われる活動はその他では「健康づくり」「情報提供」「防災・防犯活動」「自治会活動」が多い |
| 47 | アンケート福祉関係者 | 問12 | 地域福祉を推進していくためには「行政・社協・住民が協力して取り組む」が73%で多い(前回より3ポイント増) |
| 48 | アンケート福祉関係者 | 問13 | 市が重点的に取り組むべき施策は「在宅福祉の充実」「医療体制の充実」「子育て支援の充実」の順に多い |

| | 引用元 | 引用箇所 | 内容 |
|----|---------|------|---|
| 49 | 就学前児童調査 | | 89%が2世帯家族であり、そのうち祖父母近居は34% |
| 50 | 就学前児童調査 | | 子どもを祖父母に預かってもらうことに「特に問題ない」は49%で、預けることに対して何らかの心配や心苦しさがあ |
| 51 | 就学前児童調査 | | 主に身の回りの世話をするのは母親で98%、就労している母親は36%。 |
| 52 | 就学前児童調査 | | 父親就労の帰宅時間は20時台が21%で最も多く、母親就労の帰宅時間は18時台が43%で最も多い。 |
| 53 | 就学前児童調査 | | 母親が働いていない理由は働きながら子育てできる適当な仕事がない(35%)、その他(30%)、保育サービスが利用できれば就労したい(25%) |
| 54 | 就学前児童調査 | | 保育サービスを利用しているのは45%(週5日が83%) |
| 55 | 就学前児童調査 | | 保育サービスの利用理由は就労のためが48%、子どもの教育のためが37% |
| 56 | 就学前児童調査 | | 土曜日の保育サービス希望は希望しないが71%、日曜祝日は希望しないが85% |
| 57 | 就学前児童調査 | | ファミリー・サポート・センターの利用は利用していないが93% |
| 58 | 就学前児童調査 | | 地域子育て支援拠点事業の利用は利用していない73%、おひさま広場7%、子育てひろば17% |
| 59 | 就学前児童調査 | | 子育て支援サービスの認知度は児童館、児童クラブ、図書館、保育園の園庭解放・一時保育が高い |
| 60 | 就学前児童調査 | | 育児休業を利用しなかったは78%、母親が利用17%、父親が利用0.6% |
| 61 | 小学生調査 | | 76%が2世代家族であり、そのうち祖父母近居は23% |
| 62 | 小学生調査 | | 子どもを祖父母に預かってもらうことに「特に問題ない」は51%で、預けることに対して何らかの心配や心苦しさがあ |
| 63 | 小学生調査 | | 主に身の回りの世話をするのは母親で97%、就労している母親は60%。 |
| 64 | 小学生調査 | | 父親就労の帰宅時間は20時台が24%で最も多く、母親就労の帰宅時間は18時台が59%で最も多い。 |
| 65 | 小学生調査 | | 母親が働いていない理由は働きながら子育てできる適当な仕事がない(46%)、その他(31%) |
| 66 | 小学生調査 | | 放課後児童クラブを利用しているのは69%(週5日が58%) |
| 67 | 小学生調査 | | 児童クラブの利用理由は就労の為が95% |
| 68 | 小学生調査 | | 学童クラブ利用希望学年は6年生55%、5年生21%、4年生24% |